

## 細菌性赤痢

細菌性赤痢は感染症法の類型では二類感染症に位置づけられ、患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者(保菌者)は診断した医師により速やかに最寄りの保健所を通じて都道府県知事に届けられることになっています。

細菌性赤痢はグラム陰性桿菌の赤痢菌によって引き起こされ、その宿主はヒトおよびサルです。その感染経路は糞便で汚染された飲料水や食物からの経口感染が主ですが、患者が触れたドアノブなどからの接触感染も報告されています。

赤痢菌は、*Shigella dysenteriae*(A亜群)、*S. flexneri*(B亜群)、*S. boydii*(C亜群)、*S. sonnei*(D亜群)の4菌種に分けられます。さらに*S. dysenteriae*は型抗原により12血清型に、*S. flexneri*は型抗原と群抗原により6血清型・13亜型に、*S. boydii*は型抗原により18血清型・13亜型に分けられます。また*S. sonnei*の血清型は1種類ですが、O抗原のS-R変異に伴い相と相に区別されます。

埼玉県内で2001年から2003年にかけて分離され、衛生研究所で確認された赤痢菌49株の血清型と推定感染地を表に示しました。*S. sonnei*が36株と最も多く分離され、次いで*S. flexneri*が10株分離されました。推定感染地では海外感染例が32株と分離株の半数以上を占め、東南アジアやインド亜大陸での感染例がその大半を占めていました。

赤痢菌の血清型と推定感染地(2001～2003)

血清型	推定感染地			計
	推定感染国名(株数)	小計	国内	
<i>S.dysenteriae</i> 2	カンボジア(1)	1		1
<i>S.dysenteriae</i> 9	インドネシア(1)	1		1
<i>S.flexneri</i> 1a	中国(1)	1		1
<i>S.flexneri</i> 1b			1	1
<i>S.flexneri</i> 2a	インドネシア(1)	1	4	5
<i>S.flexneri</i> 2b	カンボジア(1), イジプト(1)	2		2
<i>S.flexneri</i> variant X	モロッコ(1)	1		1
<i>S.boydii</i> 2	ベトナム(1)	1		1
<i>S.sonnei</i>	タイ(5), フィリピン(3), インドネシア(2), ベトナム(2), カンボジア(1), 中国(1), 北朝鮮(1), インド(4), モロッコ(4), イエメン(1),	24	12	36
計		32	17	49